

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
			必修	選択	DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
					1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎				○	
		キリスト教と文化		1	◎				○	
		キリスト教と現代		1	◎				○	
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎					
		チームスポーツ		1	◎				◎	
		生涯スポーツ		1	◎				◎	
女性史			1	◎						
共生社会とジェンダー			1	◎						
保健福祉学部共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					
		実用英語コミュニケーション		1	◎					○
		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
情報処理基礎			1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
キャリア形成支援	ポランティア概論		1	◎						
	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
	高齢者支援学Ⅱ		1	○		○	◎	○		
	キャリア開発	2		◎						
	ライブイベントとキャリア支援		1	◎				◎		
	実践キャリアプランニング		1	◎				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
			必修	選択	DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
					1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎				○	
		キリスト教と文化		1	◎				○	
		キリスト教と現代		1	◎				○	
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎					
		チームスポーツ		1	◎				◎	
		生涯スポーツ		1	◎				◎	
女性史			1	◎						
共生社会とジェンダー			1	◎						
人文学部共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎				○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		フランス語入門		1	◎					○
		フランス語発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
		情報処理基礎		1	◎					○
情報処理演習			1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎				○		
	地域プロジェクト		1	◎				◎		
キャリア形成支援	北九州の技と文化		1	◎						
	ポランティア概論		1	◎						
	キャリア開発	2		◎						
	ライブイベントとキャリア支援		1	◎				◎		
	実践キャリアプランニング		1	◎				◎		

看護学科

学位授与の方針 (DP)

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

【専門教育科目】

- 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通じて社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護を学ぶための基礎	看護形態機能学Ⅰ	2	4								◎	○								
	看護形態機能学Ⅱ	2		4							◎	○								
	臨床栄養学	2				2					◎	○		○						
	感染と免疫	2		3							◎	○								
	疾病学総論	1			2						◎	○								
	疾病学各論Ⅰ	2				4					◎	○								
	疾病学各論Ⅱ	1					2				◎	○								
	看護のための臨床検査	1					2				◎	○								
	薬理学	2				2					◎									
	保健統計学	2				2					◎	○								
	社会保障概説	2				2					◎		○							
	家族と健康	2					2				◎	○								
	対人関係論	1			2						○	◎	○							
	発達心理学	1					2				○		◎							
	臨床健康心理学		1					1			○		◎							
	医療と倫理		1			1						◎				○				
健康教育論	1					1					◎	○								
看護学	看護学概論	2		2							○	◎		○	○	○				
	看護理論		1				1					◎	○							
	看護倫理	1					1				○	◎				○				

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護実践の基盤	看護技術論	1	2								○	◎		○	○	○		○		
	生活援助技術論演習	3		6								◎	○			○	○			
	診療関連技術論演習	1			2							◎	○			○	○			
	フィジカルアセスメント技術演習	1		2								◎	○				○			
	看護過程論	2			4							◎	○			○	○			
	基礎看護学実習 I	1		実習								○	○	○	○	○	○		◎	
	基礎看護学実習 II	2			実習							○	○	○	○	○	○		○	◎
	公衆衛生看護学概論	2		2								◎	○		○					
看護実践の応用	小児看護学概論	1			1						○	◎								
	小児看護学方法論	2				2					○	◎		○				○		
	小児看護学演習	1					2				○	○					◎			
	小児看護学実習	2						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○	◎
	母性看護学概論	1			1						○	◎	○							
	母性看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	母性看護学演習	1					2				○	○			○	◎				
	母性看護学実習	2							実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
看護実践の応用	成人看護学概論	1			1							◎	○	○						
	成人慢性期看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	成人急性期看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	成人看護学演習	2					4				○	◎	○	○	○	○				
	成人慢性期看護学実習	3							実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
	成人急性期看護学実習	3											○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学概論	1			1							◎	○			○	○			
	老年看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	老年看護学演習	1					2					○	○				◎			
	老年看護学実習 I	2											○	○	○	○	○	○	○	◎
	老年看護学実習 II	1											○	○	○	○	○	○	○	◎
	精神看護学概論	1				1						◎	○							
	精神看護学方法論	2				2						◎	○		○					
	精神看護学演習	1					2						○	○			◎			
精神看護学実習	2											○	○	○	○	○	○	○	◎	
看護実践の統合	在宅看護学	2					2					○	◎		○					
	在宅看護学演習	1						2					○		○			◎		
	在宅看護学実習	3											○	○	○	○	○	○	○	◎
	看護マネジメント総論	1				1						◎	○		○	○				
	看護研究	1					2					○	◎					○		
	看護研究演習		3						2	4			◎				○	○		
	看護総合演習	1							1	1			◎	○	○		○	○		
	看護総合実習	2											○	○	○	○	○	○	○	◎

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護学特論		1								1			◎					○		
地域包括ケア 看護の発展	地域連携協働支援論	1			1						○		○		◎					
	地域生活支援論	1					2				○	○		◎				○		
	緩和・がん看護学	1					2				○	◎	○	○						
	NPO論	1	1									○		◎				○		
	看護キャリア形成論	1			1								◎		○			○		
	災害看護学	1							1		○	○		◎	○	○				
	国際保健論		1			1				○	○		◎							
	ウイメンズヘルス		1				1				○	◎	○							
	クリティカルケア看護学		1						2		○	◎	○		○	○	○			
看護マネジメント論		1						1		○	◎	○	○	○			○			
公衆衛生看護関係科目	疫学	2	2			2					◎	○								
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	2			2					○	◎		○			○			
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	2			2						◎		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	1			1					◎	○		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	2			2						◎		○			○			
	保健医療福祉行政と政策	1	1				1				◎	○		○						
	公衆衛生看護活動演習	2							4				○		○	○	◎	○		
	公衆衛生看護管理論	2							2				◎		○	○	○	○		
	公衆衛生看護学実習	5							実習 実習				○	○	○	○	○	○	○	○
看護に関する科目	学校保健	2	2			2					◎	○		○						
	看護概説	2	2			2					○	◎		○			○			
	健康相談	2	2				2				○	◎					○			
										◎	1	34	22	3	4	0	6	0	1	11
										○	10	22	51	21	40	29	29	23	11	0
										計	11	56	73	24	44	29	35	23	12	11

看護学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。
 1-2) 看護学分野での基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 健康上の課題を解決するため、身体的・心理的・社会的な状態を把握し、論理的に思考・判断できる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 社会の看護・医療ニーズの変化に対応して、自ら学び続ける意欲を持っている。
- DP4【態度】
 4-1) 看護専門職としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
 4-2) 保健・医療・福祉の総合的視野から、健康支援に関わる人々と協働・連携する姿勢を身につけている。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 看護の対象と適切なコミュニケーションを図り、援助的関係を形成することができる。
 5-2) 看護の対象に必要な看護ケアを提供することができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 看護学科カリキュラムは、看護専門職育成を目的として、全学科共通科目の総合人間科学と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の応用・展開」「看護実践の統合」「看護実践の充実」で構成する。
- 総合人間科学では、「文化と宗教」「心身と健康」「環境と情報」「国際社会と現代」に関する科目を含み、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」では、看護の対象である人々を総合的に理解し看護を実践するための基礎的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、保健・医療に関する倫理観を養う。
- 「看護実践の応用・展開」では、あらゆる健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に必要な看護ケアを提供する能力を育成する。
- 「看護実践の統合」「看護実践の充実」では、段階的・系統的な学習の集大成として位置づけ、社会の看護・医療ニーズの変化に対応する力を養うとともに、保健・医療・福祉の総合的視野に立ち、関連職種と連携・協働する能力を育成する。また、生涯を通して主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状を取得できる。

科 目	選 択	(高 一 種 履 修 免 除)	養 教 一 種 免 除	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1	DP 5-2
				1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次										
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教職概論	2	2	2		2							○								
教育原理	2	2	2		2							○								
教育心理学	2	2	2		2							○	○							
教育社会学	2	2	2		2							○								
教育課程論	2	2	2		2							○								
特別活動論	2	2	2				2					○								
教育方法論	2	2	2				2					○								○
看護教育科教育法Ⅰ	2	2	2				2						○		○					○
看護教育科教育法Ⅱ	2	2	2						←	→			○	○	○					○
学校保健教育法	2	2	2				2						○	○	○					○
道徳教育の理論と実践	2	2	2		2							○								○
生徒・進路指導論	2	2	2				2					○								
生徒指導論	2	2	2				2					○								
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2							○								○
事前及び事後の指導	1	1	1							←	→		○	○	○	○				○
教育実習Ⅰ	2	2	2									○	○	○	○	○	○			○
養護実習	4	4	4									○	○	○	○	○	○	○		○

福祉学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探求しようとする意欲がある。
- DP4【態度】
4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。
- DP5【技能・表現】
5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
- 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。
- 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基盤として専門教育科目は、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。
- 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
- 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
- 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必 選	開講時期・選授業時間数								到達目標	DP	DP												
		1年次		2年次		3年次		4年次																
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期															
	修 括									1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2				
ヒューマンサービス基礎演習	1		2							ヒューマンサービスの専門家として必要な3つの基礎的能力を形成する。 ① 自分表現する力を形成する。 ② コミュニケーションを通して関係をつくる力を形成する。 ③ 人と協力して物事を進める力を形成する。														
基礎実習	2	2	2							1. 実習生としての心構え・マナーについて理解し、実践できる。 2. 実習に向け手続手帳について理解し、実行できる。 3. 利用者との関係形成の方法について理解し、実践できる。 4. 実習施設での具体的な支援について理解し、実践できる。														
福祉入門	2	2								1. 福祉を学ぶ意義について理解できる。 2. 福祉への興味・関心を高め、自ら学びを深めることができる。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎					
現代社会と福祉	4				2	2				1. 現代社会における福祉制度と福祉政策について理解し、説明できる。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、説明できる。 3. 福祉制度の発達過程について理解し、説明できる。 4. 福祉政策における必要と資源、課題について理解し、説明できる。 5. 福祉政策の構成要素と関連政策について理解し、説明できる。 6. 相談援助活動と福祉政策の関係について理解し、説明できる。														
社会学概論	2		2							(1) 社会学による社会理解の基本的方法を理解できる。 (2) 統計データ等の資料から社会の様子を読み取ることができる。 (3) 社会学における思想や方法論の変遷を理解できる。 (4) 現代社会の課題を整理し、それを把握するための社会学的方法と結びつけることができる。	◎		○											
社会調査の基礎	2					2				1. 社会調査の意義と目的 2. 統計法の基礎 3. 量的データとその方法 4. 質的データとその方法 5. 社会調査を支援する技術と道具 6. 社会調査における倫理と個人情報保護	◎		○	○										
相談援助の基盤と専門職	4	2	2							1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。 2. 相談援助の概念と範囲について説明できる。 3. 相談援助の理念と権利擁護の意義と範囲について説明できる。 4. 相談援助に係る専門職と専門職倫理について説明できる。 5. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携について説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○						
相談援助の理論と方法Ⅰ	4			2	2					1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明できる。 3. 相談援助におけるめざすべき援助関係の形成について説明できる。 4. 相談援助における援助関係形成上生じる問題について考察することができる。 5. 相談援助のための面接技術について説明し、活用することができる。					○									
相談援助の理論と方法Ⅱ	4					2	2			1. 様々な生活上の問題を人と環境との交互作用の中で生じる事象として考察することができる。 2. 相談援助の対象となるクライアントシステムについて説明できる。 3. 地域生活の維持を可能にする社会資源の活用・調整・開発、ネットワークキングについて説明できる。 4. 様々な実践モデルやアプローチの特徴について説明できる。 5. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 6. 相談援助の事例を通して、総合的かつ包括的な相談援助の実践方法について考察することができる。			○	◎	○	○	○	○						
地域福祉論	4			2	2					1. 地域福祉の基本的な考え、地域福祉の主体と対象を理解できる。 2. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できる。 3. 住民参加の意義と方法について理解できる。 4. ネットワークキングの意義と方法及びその実際、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法と実際について理解できる。 5. 地域トータルケアシステムの構築と実際について理解できる。 6. 福祉サービスの評価方法について理解できる。 7. 地域福祉の課題とこれからの地域福祉のあり方について理解できる。				◎	◎	○	○	○	○					○
福祉行財政と福祉計画	2					2				福祉行財政と福祉計画について理解し、その仕組みを説明できる。 2. 福祉行政について理解し、説明できる。 3. 福祉財政について理解し、説明できる。 4. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割について理解し説明できる。 5. 福祉計画の目的と意義について理解し、説明できる。 6. 福祉計画の理論と技法について理解し、せつめいできる。 7. 福祉計画の実際について理解し、説明できる。	◎			○		◎	○	○						
福祉経営論	2						2			1. 福祉サービスにおける経営の必要性と、社会福祉士の役割について理解し、説明できる。 2. 福祉サービスにかかわる組織や団体について理解し、説明できる。 3. 福祉サービスの組織と経営の基礎理論について理解し、説明できる。 4. 福祉サービスの管理運営の方法について理解し、説明できる。	○	◎	◎		○									
社会保険論	4			2	2					1. 社会保険の概念・対象・体系について説明できる。 2. 社会保険制度と民間保険制度の関係について説明できる。 3. 社会保険制度を中心とした社会保険制度の具体的な内容について説明できる。 4. 社会保険の行財政について説明できる。 5. 少子高齢化をはじめとする、現代社会における社会保険制度の課題を認識し、その課題について考察できる。			○	◎		○								
高齢者福祉論	4			2	2					1. 高齢者の生活実態及びこれを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。 2. 高齢者保健福祉制度の展開過程について理解し、説明できる。 3. 介護保険制度の仕組みとその他の高齢者福祉の法制度について理解し、説明できる。 4. 高齢者支援に係る組織・団体・専門職の役割及び支援の実際について理解し、説明できる。 5. 高齢者の持つ身体・精神・社会的特性について理解し、説明できる。 6. 介護の概念と対象について理解し、説明できる。 7. 介護過程や介護支援の基本的考え方と視点について理解し、説明できる。 8. 介護の技法（認知症のケア、終末期ケア、住環境整備を含む）について理解し、説明できる。	◎	◎	○			○	○							
障害者福祉論	2				2					1. 障害のある人の福祉の理念や概念について理解する。 2. 障害のある人の生活実態とニーズについて理解する。 3. 障害のある人の福祉制度の歴史的背景と今日の状況について理解する。 4. 障害のある人についての法や関連する法制度と自立支援について理解する。 5. 支援サービスの提供と相談援助の方法と制度など理解する	◎	◎			○									

科目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP											
		1年次		2年次		3年次		4年次														
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
		修	択																			
専門科目	子ども家庭福祉論	2			2						◎	◎		○								
	公的扶助論	2				2					◎	◎	○		○							
	医療福祉論	2			2						◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
	就労支援サービス論	2					2				○	◎	◎									
	権利擁護論	2					2					◎	○		○							
	司法福祉論	2					2					◎	○		○							
	社会福祉の歴史と思想	2			2						◎			○								
	介護技術演習	2			2								○							◎	◎	
	家庭支援論	2					2								◎							
	スクールソーシャルワーク論	2						2				○	○	◎	◎	○	○					
専門科目	相談援助演習Ⅰ	1			2								◎	◎	◎		○	○	◎			
	相談援助演習Ⅱ	1			2							◎	○	○	○					○	◎	
	相談援助演習Ⅲ	1			2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	
	相談援助演習Ⅳ	1			2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	
	相談援助演習Ⅴ	1			2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	
	相談援助実習指導Ⅰ	2					←	→					◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	
	相談援助実習指導Ⅱ	4				2	2					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	相談援助実習	4						←	→			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	専門科目	精神保健福祉に関する制度とサービス	4			4							○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		精神障害者の生活支援システム	2			2						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)		2			2							◎			○							
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ		4			4									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

科目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP										
		1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
目 係 目 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	4							4		1. 精神保健福祉相談援助活動の展開が説明できる。 2. 地域を基盤とした相談援助の説明ができる。 3. 地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開が説明できる。 4. 専門職である精神保健福祉士の意義や役割が説明できる。 5. 精神保健福祉士の実践場が想定でき、具体的相談援助のイメージを説明できる。											
	4							4		1. 精神障害に起こりやすい症状(精神症状)とそれを表現する術論を理解し、内容を説明できる。 2. 精神障害の各々について理解し、その内容を説明できる。 3. 精神障害の治療、社会復帰および社会資源の活用について理解し、その内容を説明できる。	◎	◎									
	1							2		相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に理解できる。 専門的援助技術を概念化し体系立てていくことができる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
	1							1		1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。				◎							◎
	1							1		1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
専 門 目 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2							1		1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。 2. 精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。 3. 精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な理解し実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4							2		精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的な実践的な技術等を体得する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2							1		1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的な実践的な理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2							1		1. 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成することができる。 2. 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成について理解し説明できる。 3. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)との支援関係の形成について理解し説明できる。 4. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価について理解し説明できる。 5. 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践について理解し説明できる。 6. 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務について理解し説明できる。 7. 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について理解し説明できる。 8. 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践について理解し説明できる。 9. 当該実習先が地域社会の中での施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関して理解し説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2							2		1. 精神障害者の生活支援の意義、特徴が説明できる。 2. 精神障害者の居住支援や、就労支援について実践と制度施策両面から説明ができる。 3. 地域においての精神保健福祉士としての活動が、具体的なイメージをもって説明できる。	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	
専 門 目 心理学概論Ⅰ	2	2								1. 心理学とは何か、心理学の目指すもの、人間性のモデル、問題提起と実験法について説明できる。 2. 発達心理学の観点から、人生の各時期の発達特徴について説明できる。 3. パーソナリティとは何か、特性論、類型論、精神動機論、人間学的理論、学習理論などの人格心理学の概要について説明できる。 4. 個人差の理解、人格の測定、知能検査など、臨床心理学の心理アセスメントの概要について説明できる。 5. ストレス、精神疾患の問題、心理学的方法による行動変容など、臨床心理学の心理学的援助の概要について説明できる。 6. 集団規範、リーダーシップ、獲得と態度変化など、社会心理学の概要について説明できる。	◎	◎									
	2		2							1. 神経系の仕組み、情報の入力と体側化などの神経心理学の概要について説明できる。 2. 学習とは何か、条件づけ、行動の制御、社会的学習理論など、学習心理学の概要について説明できる。 3. 記憶と忘却の仕組み、言語の性質、言語の発達、推論と問題解決など、認知心理学の概要について説明できる。 4. 動機づけ、情動などの感情心理学の概要について説明できる。 5. 発達の研究手法、各機能の発達の発化等、発達心理学の概要について説明できる。	◎	◎									
	1			2						1. 認知行動療法の歴史、意義、適用を説明できる。 2. 認知行動療法の基本的な考え方、技法、支援過程を説明できる。		○	◎								
	1				2					1. 各種発達検査や知能検査の土台となる理論を理解し、今後の学習に活かすことができる。 2. 検査実施のための技術の基本を身につけ、実践に活かすことができるように努力を始める。				◎						◎	
	1					2				福祉臨床心理実習Ⅳでは、高齢者領域におけるアセスメントと臨床心理学のアプローチについて実技やディスカッションを通して学習を深める。 1. 高齢者対象とする福祉臨床心理学の課題について説明できる。 2. 高齢者、認知症高齢者のアセスメントの実践、心理療法の実践について説明できる。 3. 各アセスメント、心理療法についての理解を深め、福祉専門職の視点からの実践的対応について説明できる。											◎
専 門 目 発達心理学Ⅰ	2		2							1. 胎児期の発達特徴について説明できる。 2. 各機能の発達過程と発達性任務について説明できる。 3. 発達と脳との関係について説明できる。 4. 代表的な発達理論(フロイトの心理学的発達論、ピアジェの発達理論、ヴィゴツキーの発達理論、プルーナーの発達理論、エリクソンの発達理論)について説明できる。 5. 発達段階と発達課題について説明できる。 6. 発達の研究手法について、それぞれ対比させながら説明できる。	○	◎									
	2			2						1. 生涯発達心理学の成り立ちと研究方法について説明できる。 2. 発達段階と発達課題について説明できる。 3. 青年期以降の身体的特徴、知覚、運動機能、認知機能などの身体機能の発達について説明できる。 4. 青年期以降の知能、記憶、思考、創造性などの認知機能の発達について説明できる。 5. 青年期以降のパーソナリティの発達について説明できる。 6. 青年期以降の家庭生活、職業生活に関連する自己の発達について説明できる。	○	◎									
	2						2			1. 自閉症スペクトラム障害のある人たちの特徴について、認知、情動、コミュニケーション、社会的スキルから説明できる。 2. 自閉症スペクトラム障害のある人に対する援助法である「対人関係発達指導法(RDI)」の概要について説明できる。 3. 自閉症スペクトラム障害のある人への他の援助法と「対人関係発達指導法(RDI)」との違いについて説明できる。			◎	○							
	2						2			1. 割り当てられた実践研究の内容についてまとめ、報告できる。 2. 報告された研究について、積極的に意見を述べ、ともにディスカッションをし、研究に対する理解を深める。 3. 報告・グループ討議を通して、発達臨床心理学の実践に活かす努力を始める。				◎	○					○	
	2						2			1. 障害の定義(医学・福祉・教育的立場からの定義)を整理して説明できる。 2. 視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、重篤・重複障害者、病弱障害者、発達障害者の心理特性の理解と心理的援助の在り方について説明できる。 3. 障害受容の諸説を理解し、障害者及び家族の心理状態に応じた援助について説明できる。		◎	○								
専 門 目 福祉心 臨床心理学概論	2		2							1. 臨床心理学の定義、歴史、現状の概要について説明できる。 2. 臨床心理学の概説となっている理論を理解し説明できる。 3. 発達理論とその臨床への応用について、その概要を説明できる。 4. 対象を理解する上でのパーソナリティ理論と発達理論が果たす役割を理解し説明できる。 5. 臨床心理学的援助における心理アセスメントの視点について理解し、心理アセスメントの具体的な実践的対応について説明できる。	○	◎									

科 目	必修	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
微生物学	2					2				1. 微生物の基本的な性質を説明できる。 2. 主な病原性微生物の性状と病原性を説明できる。 3. 主な病原性微生物の発症のメカニズムと感染予防について説明できる。 4. 病原性微生物に対抗する免疫システムを説明できる。				◎			○	
運動生理学	2							2		1. 運動の種類、体力の種類にどのようなものがあり、身体は運動でどのように変化し、それはどのような意味を持っているか説明できる。 2. 体力・トレーニングの基礎概念とその実際について理解できる。 3. 私たちが健康に生きて行くためには、どのような運動がどれだけ必要であるか、また健康状態をどのように判定するかを説明できる。 4. 糖尿病、高血圧などの生活習慣病は、運動をすることである程度発症を予防し、進行を遅らせることが期待できる。このような病気の予防という観点からも運動を理解できるようにする。		○	○	◎				
食品学Ⅰ	2		2							1. 食品成分表の歴史、内容を説明できる。 2. 食品の構成要素である水、炭水化物、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン、食物繊維などについて化学的特性を説明できる。		○	○	○				
食品学Ⅱ	2			2						1. 各食品群ごとに、それぞれの材料特性、化学・物理特性、栄養特性、嗜好特性について説明できる。 2. 食品のおいしさに関係する色、味、香りの成分や物性について説明できる。 3. 酸化、加熱、酵素などによる食品成分の変化を説明できる。		◎	○	○				
加工食品機能論	2					2				1. 加工食品に使用される機能性素材について説明できる。 2. 加工食品の保存中の変化や、変化を抑制するための包装機能について説明できる。 3. 加工食品に使用される添加物の使用目的と生理機能について説明できる。 4. 基本的な加工原理、主な加工食品の加工方法と機能性について説明できる。		○	◎	○				
調理学	2	2								1. 食品の「安全」「栄養」「嗜好」にもついた食事設計・調理環境・調理操作を説明できる。 2. 調理操作に必要な知識を学び、実習科目へ応用できる。 3. ライフステージ別の味覚・嗅下の生理、嗜好特性、食品の物性を説明できる。		○		○				
食品衛生学	2					2				1. 食品衛生行政と関係法規について説明できる。 2. 食品ごと、および家庭における食品衛生に関する留意点について説明できる。 3. 飲料水の安全衛生について説明できる。 4. 寄生虫と衛生動物について説明できる。 5. 食品添加物について説明できる。 6. 食中毒の実態と予防法について説明できる。 7. 有害物質の毒性について説明できる。 8. 食品と放射性物質の関わりについて説明できる。 9. 厨房、および病棟で使用される消毒薬の特性を説明できる。		○	○	◎				
フードスペシャリスト論	2	2								1. フードスペシャリストの概念、その業務内容と専門性について説明できる。 2. 食べ物のおいしさについて生理、心理、食欲、嗜好、食文化など各方面から説明できる。 3. 日本人の食生活の変遷を理解し、日本人の食物消費行動の特徴、食産業について説明できる。 4. 現代の食卓の課題、食環境と食育、フードスペシャリストの展望について説明できる。			○					
食品の官能評価・鑑別論演習	2			2	2					1. 食品の品質評価に関して、官能検査・化学的評価法・物理的評価法などの原理や手法を説明できる。 2. 個々の食品について種類やそれぞれの特性を理解し、鑑別方法や品質の保持について説明できる。 3. 最新の食品鑑別技術を理解し、食の現場での応用事例について説明できる。			○					
食品流通・消費論	2					2				1. 社会の変化と消費構造の変化について説明できる。 2. 食の生産・流通・消費の各部門の特徴を説明できる。 3. 各食品ごとの流通の役割と構造を説明できる。 4. 多様な消費形態と食産業・中食産業などについて企業行動について説明できる。 5. 食の安全性に対する認識を深め、企業の取り組みを説明できる。		○	○					
フードコーディネーター論	2					2				1. フードコーディネーターとして社会に貢献できることを目標に、食生活における「フードコーディネーター」の果たす役割と基礎知識を学ぶ。 2. 実際の食生活の中で学習した内容を活用することにより、心の豊かさや食文化への理解が深まることを知る。 3. 「食」に関わる全ての営みが、食教育につながることを知る。		○	○					
解剖生理学実習	1							3		1. 骨格模型の製作と小テストを通して、人体を構成する主な骨と筋肉について、名称を言えるようになる。 2. 泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようにする。 3. 実験結果をまとめグラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につける。		○	○	○			○	
人体の構造と機能基礎実習	1							3		1. 食物中の栄養素の消化に関わる主な消化酵素の性質、働きについて説明することができる。 2. 生化学および生理学で用いる基本的な装置、実験器具の名称・使用方法に習熟する。 3. ホルモンによる尿量調節の仕組みについて説明できるようにする。 4. 最大酸素摂取量測定の意味を理解し、自転車エルゴメーターを用いた推定法に習熟する。 5. ラットの解剖を通して、哺乳動物の臓器の名称、形状、働きについて説明できるようにする。 6. 「管腔内消化」と「腔消化」の違いについて説明できるようにする。		○	○	○			○	
生化学実習	1							3		1. グルコース、アミノ酸などの簡単な生体分子を分子模型で組み立てることができる。 2. 実験試薬、実験器具、および実験装置の安全な取り扱いを習得し、実習で取り上げたすべての基本操作を一人でできる。 3. 実験で得られたデータを解釈し、ひとに説明するための適切なグラフ、図を作成できる。 4. 各実験項目でどの実験が対照実験であるかを説明できる。		○	○	◎	○			
食品学実験	1							3		1. 実験器具の取り扱い、試料の調製などの化学実験の基礎知識および基礎技術を習得する。 2. 実験で取り上げるいくつかの食品成分について、その基礎的な化学特性を説明できる。 3. 実験結果をまとめ、理論と照らし合わせて考察を行い、レポートにまとめる一連の過程を理解し、その技術を習得する。			○	○				
食品栄養実習	1							3		1. 加工食品の材料特性と製造方法について説明できる。 2. 加工食品の成分特性について説明できる。 3. 市販食品の適正な利用法について説明できる。			○	○				
食品衛生学実験	1							3		1. 基本的な微生物の取扱いができる。 2. 厨房における微生物衛生管理の重要性を説明できる。 3. 基本的な微生物検査技術を習得する。 4. 食品の変敗・変質に関する分析技術を習得するとともに、食品の鮮度指標について説明できる。 5. 食品添加物の基本的な分析技術を習得する。				◎			○	
健康情報処理実習	1							3		1. アンケート調査の一連の流れを説明できる。 2. データの種類について説明できる。 3. 仮説検定について説明できる。 4. 栄養学研究で得られたデータについて、適切な統計的処理方法が選択できる。		○	○	○			○	
基礎調理学実習	1							3		1. 器具の使用法・計量の必要性・調味の基本などを踏まえた上で各調理操作の調理上の要点について、説明できるようにする。 2. 料理様式および食事構成について学び、主食・主菜・副菜、汁物の種類と調理法を活用できるようにする。 3. 季節ごとの代表的な食材について、取り扱い方や栄養素の特徴を説明できる。			○			○	○	
応用調理学実習	1							3		1. 基礎調理学実習の学習を踏まえた上で、各種調理操作や食品の調理上の要点について実習し応用できるようにする。 2. 離乳調理として、朝食・昼食・夕食の特徴や料理例、自分の日常食の調理法や調理例について季節感や嗜好も取り入れ、活用できるようにする。 3. 和風・洋風・中国風料理の特徴や種類を理解したうえで、折衷料理も自由に作成できる。 4. デザートやおやつ、行事食について作る意義・文化や特徴を献立に活用できるようにする。			○			○	○	

専 門 教 育 科 目	科 目	必 修 単 位	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
専 門 教 育 科 目	臨床基礎医学実習	1						3											
	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2		2								○	○					
		基礎栄養学Ⅱ	2		2								○	○					
	応用栄養学	栄養学概説	2		2								○	○	○				
		応用栄養学Ⅰ	2			2							○	○	○	○			
		応用栄養学Ⅱ	2			2							○	○	○	○			
		運動・環境と栄養	2					2					○	○	○				
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2					2					○	○	○	○	○	
			栄養教育論Ⅱ	2					2					○	○	○	○	○	
	栄養カウンセリング論		2					2					○	○	○	○	○		
	臨床栄養学	臨床栄養管理学	2					2					○	○	○	○			
		栄養治療学Ⅰ		2					2					○	○	○	○		
			栄養治療学Ⅱ	2					2					○	○	○	○		
		臨床栄養活動論	1						1				○	○	○	○	○		
		介護概論	1						1				○	○	○	○	○		
公衆栄養学		公衆栄養学Ⅰ	2					2					○	○	○	○			
	公衆栄養学Ⅱ	2					2					○	○	○	○				
	地域栄養活動論	2					2					○	○	○	○				
	給食経営管理論	給食計画論	2					2					○	○	○	○			
給食経営管理論		2					2					○	○	○	○				

科 目	必修	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
実験・実習	栄養学実習	1			3						◎	○	○					
	応用栄養学実習	1				3					○	◎	○	○	○	○	○	
	栄養教育論実習Ⅰ	1					3				○	○	○	○	○	◎	○	
	栄養教育論実習Ⅱ	1						3			○	○	○	○	○	○	◎	
	臨床栄養学実習	1							3								◎	
	公衆栄養学実習	1								3			◎	○	○	○	○	○
	給食経営管理実習Ⅰ	1									3							○
	給食経営管理実習Ⅱ	1										3						○
総合演習	総合演習Ⅰ	1																◎
	総合演習Ⅱ	1																◎
臨地実習	臨地実習Ⅰ	1																◎
	臨地実習Ⅱ	2																◎
	臨地実習Ⅲ	1																◎
食と健康分野	調理師論	2	2															◎
	薬事法規概論	2	2															◎
	食品機能特論	2																◎
実践栄養分野	実践調理・調理科学演習	1																◎
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1																◎
	国際栄養論	2																◎

科 目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP							
			1年次		2年次		3年次		4年次																			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																		
日本語A	2	4									1. 専門分野の論文やレポート等、論理的な文章を読むために必要な読解力を習得できる。 2. 論理的な文章を書くために必要な語彙、文法の知識を習得できる。 3. 日常生活・留学生活に必要なスキルを習得できる。																	
													1. 発表を開き取ることができる。 2. 聞き取りに関する自分の弱点を知ることができる。 3. 発表する際に必要な表現や語彙を身に付けることができる。 4. 時事問題を日本語で説明できる。															
日本語B	2	4									1. 日本人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、ビジネスの社会的役割、成果のために働くことの意味について理解できる。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができる。																	
インターンシップ	2				2						1. 日本人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、ビジネスの社会的役割、成果のために働くことの意味について理解できる。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができる。	○		○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○					
現代ビジネス人材論	2				2						1. 日本の社会の変遷と、「仕事への移行」に際して女子大学生が直面する課題を理解できる。 2. 社会人として求められる12の基礎能力要素について、自らの成長を促すことができる。 3. 自らの価値観、特性、興味を客観的に捉え、自身のキャリアプランを策定できる。 4. 訪問・面接などの求職活動や実際のビジネスシーンに必要な基本動作ができる。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
職業選択と能力開発	2					2					1. 自己分析ができ、自分に適した職業診断ができる。 2. 会社が求める人材(種い違い、雇いたくない人等)に関して説明できる。 3. 会社があなたに求めるもの(グループワーク)について説明できる。 4. 地元企業見学、現場担当者との意見交換を通して仕事、社会の厳しさが説明できる。 5. 採用を勝ち取るためのキープポイント(グループワーク)について説明できる。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○					
簿記入門	2					2					1. 取引と仕訳のルールから、欧米式計算法と日本式計算法の違いから、その内容が説明できる。 2. 勘定科目の意味から、現金の管理は、経理の最も重要な仕事であることを説明できる。 3. 記帳の方法は、取引内容によって記録する帳簿が違ふことを理解させ、その内容が説明できる。 4. 期中の取引から適切な仕訳を導出し、その内容が説明できる。																	
簿記演習	2						2				1. 期中の取引から仕訳を導き、帳簿の記入方法に基づいて、その内容が説明できる。 2. 期中の取引から適切な仕訳を導出し、その内容が説明できる。 3. 決算整理事項から仕訳を考え、複式簿記の仕組みを理解し、その内容が説明できる。 4. 精算表作成から財務諸表作成まで、その内容が説明できる。																	
国際ビジネス論	2						2				1. 貿易取引、対外直接投資等の国際ビジネスの基本的な仕組みおよび業務取引(例えば、企業が海外進出するとはどういうことなのか)を理解できる。 2. 国際ビジネスの動向、それに関するリスク、金融、情報、法律、税金などの諸問題を理解できる。 3. 日本および米国のビジネス文化の特徴を相互に對比しながら、その強み・弱みを理解できる。	○			◎	○	○	○	○	○	○	○	○					
航空ビジネス研究	2						2				1. 自己分析ができ、志望動機を説明できる。 2. エントリーシートや履歴書等を確実に書くことができる。 3. 日本語と英語で課題対策や面接に対応できる。 4. 客室乗務員や空席職員の仕事内容が理解でき説明できる。	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○					
地域貢献・国際貢献科目	国際ボランティア演習	2					2				1. 日本人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、国際的な視野に立ち、持続可能な社会の在り方を理解し、その実現のために自分ができることについて考えることができる。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができる。	○		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○					
	教育ボランティア演習	2					2				1. 日本人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、教育の社会的役割について理解できる。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができる。	○		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○					
	児童英語教育入門	2						2			1. 小学校学習指導要領の趣旨が説明できる。 2. 小学校学習指導要領外国語活動の内容が具体的に説明できる。 3. 小学校学習指導要領外国語活動と中学校学習指導要領外国語の目標の違いが説明できる。 4. 小学校における外国語(英語)導入の背景が説明できる。 5. 英語教育全体における小学校英語教育の役割が説明できる。																	
	児童英語教育研究	2							2		1. 小学校における英語活動の意義が説明できる。 2. 小学校英語活動の目標の立て方が説明できる。 3. 年間指導計画の作りかたが説明できる。 4. クラスルームイングリッシュの活用ができる。 5. 多様なアイデア集が理解でき、いくつかを使うことができる。																	
演習・研究	専門演習 I	2							2		1. 国際的視野・地域の視野に立脚した豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、その対応策を考えることができる。 4. 異文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. 国際社会・地域社会の諸問題に関心をもち、その解決に自らの能力を高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創出することができる。 7. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。 9. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 10. 英語・日本語による情報収集・情報処理能力を身につけることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○					
	専門演習 II	2							2		1. 国際的視野・地域の視野に立脚した豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、その対応策を考えることができる。 4. 異文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. 国際社会・地域社会の諸問題に関心をもち、その解決に自らの能力を高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創出することができる。 7. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。 9. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 10. 英語・日本語による情報収集・情報処理能力を身につけることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○					
	卒業研究	4								4	1. 国際的視野・地域の視野に立脚した豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。 4. 異文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるためのさらなる意欲を身につけることができる。 5. 国際社会・地域社会の諸問題に関心をもち、その解決に自らの能力をさらに高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創出することができる。 7. 国際社会の一員として、3年間の経験を活かして、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識をこれまで以上に役立てることができる。 9. どのような相手にも躊躇なく、協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 10. 英語・日本語による、より高度な情報収集・情報処理能力を身につけることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○					
	English Extension I	1								1	1. ささまざまな場面でも英語を使用することに慣れる。 2. 異なる文化に関心を持つ。 3. 課題を解決するために他者と協働する姿勢を身につける。																	
	English Extension II	1								1	1. 課題解決のために、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を身につけている。 2. 異なる文化を理解しようとする姿勢を身につけている。 3. 課題解決のために、他者と協働する姿勢を身につけている。																	
	English Extension III	1								1	1. 場面に応じて、適切に英語を使用することができる。 2. 国際社会や地域社会の課題に関心を持ち、課題解決のための意欲を身につけている。 3. 他者と協働して、課題を成し遂げることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	English Extension IV	1								1	1. 課題解決のために、効果的に英語を使用することができる。 2. 国際社会の一員として、責任ある役割を果たそうとする態度を身につけている。 3. 他者の価値観や立場を尊重し、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎				

英語学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 国際的視野と地域的視野によって行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
 1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
 5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を配置する。
- 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 「専門基礎科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	高 一 語 種	中 一 語 種	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2			
				1年次		2年次		3年次		4年次														
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
教職概論	2	2	2		2							◎									○			
教育原理	2	2	2		2							◎										○		
教育心理学	2	2	2		2							◎										○	○	
教育社会学	2	2	2		2							◎		○								○		
教育課程論	2	2	2		2							◎										○		
特別活動論	2	2	2				2					◎										○		
教育方法論	2	2	2		2							○										◎		
英語教科教育法Ⅰ	2	2	2		2							◎										○		
英語教科教育法Ⅱ	2	2	2		2							◎										○		
英語教科教育法Ⅲ	2	2	2		2		2															◎	○	
英語教科教育法Ⅳ	2	2	2		2		2															◎	○	
英語教科教育法Ⅴ	2	2	2		2		2							○								◎	○	
道徳教育の理論と実践	2	2	2		2									○								◎	○	
生徒・進路指導論	2	2	2		2									○								◎	○	
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2									○								◎	○	
事前及び事後の指導	1	1	1																				◎	◎
教育実習Ⅰ	2	2	2																			○	○	
教育実習Ⅱ	4	4	4																			○	◎	

教職実践演習（中・高）	2	2	2							2	<p>1. 教職課程での学びを再点検し、自らに残された課題を探ることができる。</p> <p>2. 教師として求められる資質・能力を具体的に学校備面に結び付けて理解し伸ばすことができる。</p> <p>3. 信頼される学校づくりに貢献する教師の在り方を理解し具体的な方策を探ることができる。</p> <p>4. 生徒理解に基づいた教育活動を展開することができる。</p> <p>5. 授業の計画、実施、評価に関する知識と実践力を伸ばすことができる。</p> <p>6. 教師として自律的な成長に必要なリソースを探り活用することができる。</p>	○				○			○	◎	
-------------	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	---	--

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
専	基礎中国語	□			2						1 中国の社会と文化を中国語でスピーチすることができる。 2 中国のやや高度な「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」を習得することができる。 3 中国語文法の向上を習得できる。	○	◎	○									
	中級中国語	□			2						1 中国語の基本文法をしっかり把握できる。 2 各課の新出単語を正確に覚える。 3 各課の会話練習、ジェスチャーゲーム、グループタスク楽しくできる。 4 中国語の総合コミュニケーション力を身につける。	○	◎	○									
	上級中国語	□			2						1 中国語文法の基本事項を習得できる。 2 更にやや高度な文法事項を習得できる。 3 具体的に日常生活のいろいろな場合のコンテキストにおいて活用できるような中国語の会話ができる。 4 中国語で作文の表現能力を習得できる。	○	◎	○									
	応用中国語	□			2						1 社会生活に必要な中国語を基本的に習得することができる。 2 中国語全般に渡る高度な運用能力を身に付けることができる。 3 中国語の十分な読解力、表現力、翻訳力を身に付けることができる。 4 毎年実施される中国語検定試験の基礎問題正解できる。	○	◎	○									
	ツーリズム中国語	2					2				1 ツーリズム中国語会話を習得することができる。 2 中国のホスピタリティを理解することができる。 3 中国人観光客のおもてなしに必要な知識を勉強することができる。			◎		○	◎						
	中国語通訳ガイド演習	2						2				1 通訳ガイドに必要な語学能力を高めることができる。 2 日中国の観光文化の相違を理解することができる。 3 中国語でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。			◎		○	◎					
教	欧米文化交流研修A	▲	2								1 欧米の国/欧米系文化圏の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深める。 4 実践的な英語力を身につける。	○		◎					◎				
	アジア文化交流研修A	▲	2								1 アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深めることができる。 4 外国語の運用能力を身に付けることができる。 5 異文化交流のノウハウを身につけることができる。	○		◎					◎				
	欧米文化交流研修B	▲	2								1 欧米の国/欧米系文化圏の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深める。 4 生活の中で、実際に英語の運用能力を活用できる。	○		◎					◎				
	アジア文化交流研修B	▲	2								1 アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3 国際化についての理解を深めることができる。 4 外国語の運用能力を身に付ける。 5 異文化交流を通して、多様性への対応ができる。	○		◎					◎				
	比較文化論	2	2								1 現代ドイツの生活と観光地について知識や理解を深めることができる。 2 基礎的なドイツ語に触れ、ドイツ語検定5級の合格を目指すことができる。 3 日独でなぜさまざまな違いがあるのか考えることができる。								◎		○		
	欧米観光文化地理Ⅰ	2			2						1 欧米の観光地のあり方として、城内や各国の具体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができる。	◎		○							○		
	欧米観光文化地理Ⅱ	2			2						1 欧米の観光地のあり方として、城内や各国の具体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができる。	◎		○							○		
	アジア観光文化地理Ⅰ	2			2						1 東アジア諸国における国際観光の現状を把握することができる。 2 東アジア諸国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができる。 3 東アジア諸国の地域性や風土人情を把握することができる。 4 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができる。				◎							○	
	アジア観光文化地理Ⅱ	2			2						1 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができる。 2 東アジア以外の国の地域性や風土人情を把握することができる。 3 東アジア以外の国の観光資源を認識することができる。				◎							○	
	映画で学ぶ欧米文化	2			2						1 現代欧米社会が抱える問題点を把握できる。 2 映画の中のような欧米文化が現れているのが分析できる。 3 英米文化の特徴を認識できる。				◎		○	○					
キ	キャリアデザイン論Ⅰ	2			2						1 キャリアデザインとは何かを理解することができる。 2 キャリアデザインのための自己理解を身につけることができる。 3 人生をどのように歩んでいくかの考え方を身につけることができる。					◎	○	○	○				
	インターンシップ	2			2						1 勤務経験を通して、企業等の社会的役割、社会の成り立ち、働くことの意味、責任、チームワークの重要性などを理解できる。 2 自身の職業意識を醸成したり高めたりすることができる。 3 将来の進路につながる実習先の企業等の活動内容、産業の動向を理解できる。						◎	○	○	◎	○		
	キャリアデザイン論Ⅱ	2			2						1 キャリアデザインについて、理論と実践の視点から理解できる。 2 自己理解と仕事理解の基本的な考え方が理解できる。 3 仕事のルールや必要となる能力は何かを理解できる。 4 ワークライフバランス、生涯学習などの取り組みを理解することができる。					◎	○	○	○	○			
留	初級日本語	■	2								1 初歩的な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 初歩的な日本語(外国語)の学習を通して、物事を若干異なった角度から見つめ、また、考えを少し深めることができる。 3 日本語を用いて少しおもしろいことに挑戦できる。				○		○	◎					
	中級日本語	■	2								1 やや高度な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 やや高度な日本語(外国語)の学習を通して、物事を異なった角度から見つめ、また、考えを深めることができる。 3 日本語を用いておもしろいことに挑戦できる。				○		○	◎					
	上級日本語	■	2								1 高度な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 高度な日本語(外国語)の学習を通して、多角的に物事を見つめ、また、考えを深めることができる。 3 日本語を用いて意義のあるおもしろいことに挑戦できる。				○		○	◎					
	応用日本語	■	2								1 難解な日本語の四技能(読む、書く、話す、聞く)を身につけることができる。 2 難解な日本語(外国語)の学習を通して、一層多角的に物事を見つめ、また、考えを深化させることができる。 3 日本語を用いて意義深いおもしろいことに挑戦できる。				○		○	◎					
	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	留	
演	ツーリズム演習	1			2						1 論理的思考の基礎習得ができる。 2 ツーリズムに関する問題点の抽出ができる。 3 ツーリズムに関する的確な情報収集ができる。 4 効果的なプレゼンテーションの基本習得ができる。	○	○	○	○	○	◎	○	○	○			
	ビジネス演習	1			2						1 ビジネスや社会で多用される基礎的知識・スキルを修得している。 2 ビジネスや社会に必要な論理的に考え説明する基本的な能力を修得している。	◎			○		○	○	○				
	地域活性化演習	1			2						1 地域の実態を知ることにより、地域が抱える課題の存在に気づくことができる。 2 地域活性化の意義を知ることができる。 3 事例研究を通して各地の活性化の手法を学ぶことができる。 4 身近な地域を選び、その活性化に取り組むことができる。	○			◎		○	○	○				
	専門演習Ⅰ	1			2						1 自分の所属するゼミのテーマの先行研究の概要を理解している。 2 質的研究と量的研究の基礎的な分析ができる。 3 研究テーマにふさわしい調査方法の選択ができる。	○			◎	○	○	○	○	○	○		
	専門演習Ⅱ	1			2						1 質的データと量的データの分析と活用ができる。 2 所属するゼミのテーマと関係の深い先行研究の概要が理解できる。 3 論文執筆にあたり適切な調査方法を選択してそれを正しく活用ができる。	○			◎	○	○	○	○	○			
卒業研究	4			4							1 問題意識や研究テーマをできるだけ明確にしながら、その内容についての発表・討論をすることができる。 2 卒業論文制作について、研究計画を立案できる。 3 論理的な考え方ができ、説得的な論考ができる。	◎	○	○	◎	○	○	◎					

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 助産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした助産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
				1-1	1-2		1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1			
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	1. 助産の基本概念と助産に関連する理論の概要について説明できる。 2. 日本における助産師の責務と役割、法的立場づけについて説明できる。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライフの基本となる考え方について説明できる。 4. 我が国の母子保健の動向と課題を他国と対比させて説明できる。 5. 助産実践の倫理的課題を説明できる。 6. 助産過程の特徴と展開について説明できる。 7. 助産師教育や助産の方向性について考えることができる。	◎	○	○						
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	1. 男女のリプロダクションに関する形態・機能、性と生殖に関連する疾患、その対応について説明できる。 2. リプロダクションに必要な医療機器の操作や検査およびデータの判読ができる。	◎	○		○	○				
	母子の心理・社会学	1	1		2	1. 思春期・青年期の身体的変化および心理的課題を説明できる。 2. 思春期・青年期に特徴的な障害や問題を説明できる。 3. 成人期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 4. 成人期に特徴的な問題を理解し、対応を説明できる。 5. 中年期・老年期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 6. 中年期・老年期に特有の問題を理解し、対応を説明できる。 7. マタニティサイクルにおける母・父の心理的特徴が説明できる。 8. 母子関係・父子関係を築くための親役割について説明できる。	○	◎		○	○	○			
	助産学研究演習	1	1		2	4	1. 助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基本的方法を説明できる。 2. 文献のクリティークができる。 3. 自己の継続受け持ち妊産婦のケアについて研究的に取り組み、文献をもとに考察を深め発表できる。	○				○	○	◎	
	母子栄養学	1	1		2	1. マタニティサイクル各期における健康教育に必要な母子の栄養と食事について説明することができる。 2. 妊娠前と乳児期の前駆栄養について説明することができる。 3. 幼児期・思春期・更年期における健康教育に必要な栄養管理について説明できる。	○	◎		○	○				
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	2	1. キリスト教的人間観と世界観を理解し説明できる。 2. 生殖医療・胎児診断と生命科学に関連づけられた生命倫理に対する考え方を理解し、説明できる。 3. 産後相談・不妊相談におけるカウンセリングの対応を説明できる。 4. 産前における子どもの生死や障害の受容に対応する親の支援について説明できる。 5. 倫理的見地からみた助産師の役割の重要性を説明できる。	○					◎		
	助産実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	1. 助産師に必要な妊婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 妊娠期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 妊娠期のフィジカルアセスメントに基づき、妊婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。	○		◎			○	○	
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特徴を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度を習得することができる。	○		◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	1. 助産師に必要な産婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 産褥期のフィジカルアセスメントに基づき、産婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。	○		◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		2	1. 新生児・乳幼児の形態・機能的特性と適応過程について説明できる。 2. 新生児・乳児のフィジカルアセスメントに必要な診察法とその実際を説明できる。 3. 新生児・乳児に起こる異常と疾患およびその対応法を説明できる。 4. 出生直後の新生児のケアおよび養生法を実施できる。 5. ハイリスク新生児の病態について説明できる。 6. NICUにおける児や家族への支援について説明できる。 7. 乳幼児の成長・発達過程について説明できる。	○		◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅴ(围産期のハイリスク)	1	1		2	1. 围産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 围産期に活用する医療機器の操作や検査・データの判読ができる。 4. 围産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患をもつ対象のケアを説明できる。	○		◎					○		

助産別科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP							
				前期	後期		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1
専門科目	助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	2	2		4	4			◎		○	○	○	○
	助産診断・ケア学VII(助産過程演習)	2	2		2	2	○			◎	○	○	○	○
	女性の健康支援論	1	1		2		○		◎	○		○		
	助産管理学	2	2		2	4	◎					○		
	地域母子保健	1	1		4		○		◎	○		○		
支援科目	総合看護学	1		1	2		○					◎		
	母性の運動科学	1	1		2		◎							
	子育て支援論	1		1	2		◎				○	○		
実習	助産学基礎実習	4	4			実習					○	○	○	◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5			実習					○	○	○	◎
	助産学実習Ⅱ(正常逸脱)	3	3			実習					○	○	○	◎
	助産管理実習	1	1			実習					○	○	○	◎

2018年度 短大一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)					
				DPI【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
キリスト教教育	キリスト教Ⅰ	2		◎					
	キリスト教Ⅱ	2		◎					
初年次教育	初年次セミナー	1		◎					
女性と健康	運動と健康	1		◎					○
	スポーツ実技		1	○					◎
	女性とマナー		*1	◎				○	
	女性史		*1	◎					
	共生社会とジェンダー		*1	◎					
	女性と装いの文化		*1	◎				○	
基礎教養	心理学		2	◎					
	文学		2	◎					
	日本国憲法		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎				○	
	経済学入門		2	◎					
	生活の中の環境学		2	◎					
アカデミックスキル	メディアリテラシー		2	◎					○
	情報処理入門		2	◎					○
	英会話入門		1	◎					○
	こどもとふれあう英会話Ⅰ		1	◎	○				○
	こどもとふれあう英会話Ⅱ		1	◎	○				○
	ハングル入門		1	◎					○
	日本語表現法		1	◎					○
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎					
	北九州の技と文化		1	◎					
キャリア形成支援	キャリア開発		1	◎					
	実践キャリアプランニング		1	◎					

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針（DP）

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心をもち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を探索する力を有している。

DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

- 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。
- 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩率(上)」を理解することができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。
- 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教教育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指す。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進化する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。
- 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な科目を別途資格免許に係る必修科目として配置している。また、多様化する社会のニーズに対応するためにピアヘルパー資格、こども音楽療育士、認定ベビーシッター資格が取得できる選択科目を配置している。

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP								
			1年次		2年次												
			前期	後期	前期	後期											
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3	
専門教育 保育に関する科目	保育者論	2		2													
	保育原理	2			2												
	教育原理	2				2											
	児童家庭福祉	2		2													
	社会福祉	2			2												
	社会的養護	2				2											
	相談援助	1				2											
保育の心理	保育の心理学Ⅰ	2		2													
	保育の心理学Ⅱ	1			2												
	臨床心理学(カウンセリング含む)	2				2											
保育の対象の理解に関する科目	子どもの保健Ⅰ	2			2												
	子どもの保健Ⅱ	2				2											

授業科目	必修	週授業時間数	1年次		2年次		到達目標	DP										
			前期		後期			1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3	
			前期	後期	前期	後期		1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3	
子どもの保健演習	1				2				○								◎	
保育の対象の理解に関する科目	子どもの食と栄養	2			4	(4)			◎								○	
	家庭支援論	2			2						◎						○	
専門教育科目	保育の内容・方法に関する科目	保育・教育課程論	2		2									○			◎	
		保育内容総論	1		2					○							◎	○
		保育内容「健康」	1		2					○							◎	○
		保育内容「環境」	1		2					○							◎	○
		保育内容「言葉」	1		2					○							◎	○
		保育内容「表現(造形・絵画表現)」	1		2					○							◎	○
		保育内容「表現(身体・音楽表現)」	1		2					○							◎	○
		保育内容「人間関係」	1		2					○							◎	○
		保育実践の理解と方法	1		2						◎			○				
		保育メディア演習	1		2						○				◎			
		保育相談支援	1		2								○					◎
		障がい児保育 I	1		2						◎	○						
		障がい児保育 II	1		2							○						◎
		乳児保育	乳児保育 I	1		2					◎	○						
乳児保育 II	1			2						○							◎	

授 業 科 目	必 選	週 授 業 時 間 数				到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P
		1 年 次		2 年 次													
		前 期	後 期	前 期	後 期												
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護内容	1			2			◎		○							○
	キリスト教保育	2		2		◎											○
	こども音楽療育概論	2		2			◎										○ ○
	こども音楽療育演習	1			2												◎ ○
	こども音楽療育実習	1			5日間												◎ ○
	在宅保育	2			2												○ ◎
専 門 教 育 科 目	音楽の基礎	1	2				○										◎
	こどものうたあそび	1		2													◎
	こどものためのピアノⅠ	1	2														◎
	こどものためのピアノⅡ	1		2													◎
	こどものうたと伴奏法Ⅰ	1			2												◎
	こどものうたと伴奏法Ⅱ	1			2												◎
	器楽アンサンブル	1			2												◎
	こどもの造形あそび	1	2														◎
	こどもの運動あそび	1		2													◎
	こども文化	1		2					◎								○
教 科 に 関 する 科 目	◇ こどもの発達理解とあそび	1			2			○ ◎									○
	こどもの生活とあそび	1			2				◎								○
	こどもの文学と物語	1			2		◎ ○										
	保育総合表現	2			4							○ ○ ◎					

授 業 科 目	必 選	修 単 位	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P																	
			1 年 次		2 年 次																														
			前 期	後 期	前 期	後 期																													
総合演習	2	2	2	2																															
																			子ども学基礎演習	2	2														
保育・教職実践演習(幼稚園)	2			2																															
																			教育実習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教育実習 I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																		
																		教育実習 II	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教育実習 III	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																		
																		保育実習指導 I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育実習指導 II	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																		
																		保育実習指導 III	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育所実習 I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																		
																		保育所実習 II	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
施設実習 I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																		
																		施設実習 II	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2